

持113

889

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>19</sup> 1 2 3 4 5

始



47113  
889



|   |   |     |     |  |                                     |
|---|---|-----|-----|--|-------------------------------------|
|   |   | ツレ  | ワキ  | 後シテ  | 前シテ                                 |
|   |   | 從僧  | 遊行上 | 柳朽の木   | 老                                   |
|   |   | 人   | 人   | 精の   | 人                                   |
|   |   | 右同断 | 大口僧 | 〔面〕舞尉又は舞小尉 襷 白垂 黒風折烏帽子 (金風折にも) 着附厚板 色大口 單狩衣 扇 床几 | 〔面〕三光尉又は朝倉尉の類 襷 尉髪 着附無地熨斗目 水衣 腰帶 珠數 |
| 目 | 番 | 三   | 河   | 白  | 國                                   |
|   | 月 |     | 5   | 4  | 7                                   |

遊ウツ行ヤウ柳リウ

内之部卷之五ノ五

大正  
五 四 七  
内交

遊行柳一

解説

遊行柳二

囃子方座着き、作物塚、引廻しかけ大小前へ出す。夫より次第にてワキ、同ツレ二人と出で舞臺に入り向き合ひ諺ふ。

ワキ次第表 『歸るさ知らぬ旅衣』 此處は納めて諺ふべし、名宣、道行すべて同断。着セリフ濟み、シテ、

呼懸にて出づ。

シニ枚表 『なふく遊行上人の御供の人に申すべき事の候』 此呼懸位あり。

初ニ枚表 『此方へ入らせ給へとて』 初回はしつとりとつけて諺ふべし。

地三枚表 『實に賑な所から』 此地は少し氣を變へ諺ふ。

シ三枚表 『是こそ昔の街道にて候へ』 此詞はワキへかゝり諺ふべし。以下懸合宜しくありて。

地六枚表 『道の邊に清水流る、柳蔭』 此處位ありて而も軽くつけ諺ふ。シテに形あり、能く見計ひ諺

ふべし。シテ作物へ中入、間濟み、

ワ七枚表 『不思議や扱は朽木の柳の』 ワキはハツキリ諺ふべし。

待諺につげ出羽打出し。

シ七枚表 『沅水羅紋海燕歸る』 こ、シテ作物の中より諺ひかける。此大鼓地、諺ひ方習ひ、口傳。

地八枚表 『髪も亂る、白髮の老人』 此處にてシテ作物より出づ。

ワ同表 『ふしぎやなさも古塚の草深き』 此處はシテへかゝりて諺ふ。以下懸合宜しくありて、

地九枚表 『此界一人念佛名』 と、かゝつてつけ諺ふ。

シ九枚表 『釋迦既に滅し』 此處は納めて諺ふべし。

地同表 『南無や瀧濁歸命頂禮』 此地はかゝつてつけ諺ふ。

クセ クセは種々形あれば見計ひ諺ふべし。

地十二枚表 『迷はぬ月に、つれて遊ばん』 と、序ノ舞。

シ同表 『柳の曲も歌舞の菩薩の』 此諺の中太鼓合方、習ひ、口傳。

キリはシテに種々の形あり、見計ひ諺ふべし。

遊行柳三

遊行柳

第

歸<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>粧<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>

を<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>奪<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>

遊<sub>レ</sub>ぶ<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>粧<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>

を<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>奪<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>

余<sub>レ</sub>別<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>廣<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>男<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>粧<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>

遊

世  
二  
わが國を以ては  
誠にして人を以てては  
無情にして人を以てては

一  
わが國を以ては  
誠にして人を以てては  
無情にして人を以てては

一  
わが國を以ては  
誠にして人を以てては  
無情にして人を以てては

諸侯の一人の事

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに

其の事を知るに



... 柳枝... 同... 昔... 古... 今...

... 柳枝... 同... 昔... 古... 今...







流氷の級海  
渡の心梅條  
新耳の心梅條  
板時をて  
あり行の直の心梅條  
乃て心梅條

あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條  
あつちの心梅條

界一人...  
 強...  
 念...  
 事...  
 非...  
 柳...  
 柳の精...  
 非...  
 事...  
 念...  
 強...  
 界...

何...  
 其...  
 何...  
 其...  
 何...  
 其...



新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養  
新入の御供養の御供養の御供養

洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺  
洛陽の清い水寺の清い水寺

註

三  
初乃花さくらり。大さな人のほほむ。  
瀬糸乃ほむ。日本のもはほむ。  
なまきり。さきか。あ。あ。あ。あ。  
新桜アラハのちかひ。あ。あ。あ。あ。  
諸人の花や。あ。あ。あ。あ。乃降。  
清くは風の白く。あ。あ。あ。あ。あ。

一  
初乃花さくらり。大さな人のほほむ。  
瀬糸乃ほむ。日本のもはほむ。  
なまきり。さきか。あ。あ。あ。あ。  
新桜アラハのちかひ。あ。あ。あ。あ。  
諸人の花や。あ。あ。あ。あ。乃降。  
清くは風の白く。あ。あ。あ。あ。あ。

折乃曲シテ下もシテ上のシテ上花シテ下のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 柳シテ下花シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 昔シテ上板シテ下のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 道シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 今シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 昔シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 折乃曲も花の舞の舞の舞の舞

乃シテ上花シテ下のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 柳シテ下花シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 昔シテ上板シテ下のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 道シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 今シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 昔シテ上のシテ上舞シテ下のシテ上舞  
 折乃曲も花の舞の舞の舞の舞

註



手折る可<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>た  
ま<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>  
花<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
風<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
よ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
振<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>

乃<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
は<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>



著作權所有

大正

五年

四月

九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著者 寶生九郎



東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛



東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 椀屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎

終

